

平成21年度 宮城県リスクコミュニケーションモデル事業 実施結果（概要）

【 エム・セテック株式会社 仙台工場 】

宮城県環境生活部環境対策課

1 はじめに

化学物質は、私たちの日常生活を維持するために欠かすことのできない存在となっていますが、一方、化学物質が人や動植物に悪影響を及ぼすレベルにならないよう適切な管理や取扱いが行われなければなりません。

事業者による化学物質の適正管理と排出削減も重要ですが、より合理的に環境リスクを管理し削減するためには、住民、事業者、行政が化学物質に関する情報を共有し、意見交換を通じて意思疎通と相互理解を図る「リスクコミュニケーション」の取組が有効です。

宮城県では、県内のより多くの地域及び事業者においてリスクコミュニケーションの取組が行われることを目指し、普及啓発と取組支援のためにモデル事業を開催しました。

2 開催概要

- (1) 事業者 エム・セテック株式会社 仙台工場
所在地：山元町浅生原字下宮前83
- (2) 日時 平成21年11月18日（水）
午後1時30分～午後4時45分

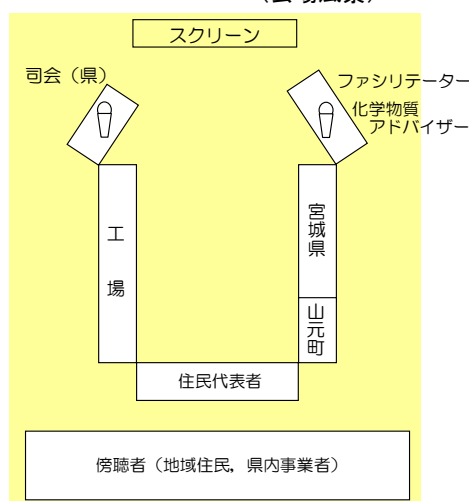


(会場風景)

3 出席者

合計35名

- (1) 参加者 計14名
- 住民代表者 3名（浅生原地区）
 - 工場 4名
 - 山元町 1名
 - 宮城県 4名
 - ファシリテーター 1名
 - 化学物質アドバイザー 1名
- (2) 傍聴者 計21名
- 住民 7名
 - 県内事業者 9名
 - その他 5名



(会場イメージ図)

4 プログラム

- ・開会あいさつ
 - ・化学物質に関する講演 (化学物質アドバイザー)
 - ・宮城県における化学物質の排出状況等について (宮城県環境生活部環境対策課)
 - ・企業紹介
 - ・工場見学
 - ・工場の環境への取組について
 - ・意見交換会
- (エム・セテック株式会社仙台工場)

5 意見交換会の主な内容

- (1) これまで工場について何も知らないままに不安や疑問を感じていましたが、今日工場見学や説明を受けていろいろ知ることができて、不安や誤解が解消した部分もあり、認識を新たにできました。事前の住民アンケートでも、工場からの情報公開がなかったために不安を感じているように見受けられますが、今後、地域住民に対してどのように情報公開し

ていくか、考えを聞かせてほしい。また、窓口はどこになるのか。

- <工場> 皆様からのお話をお伺いし、情報提供がないためにさまざまな誤解や不安等をお持ちになられていることが分かりましたので、今後の情報提供については工場長に相談し、具体的に前向きに検討し実施していきたいと思っております。例えば、救急車が来る時、騒音の発生する作業をする時などは、事前に地域住民の皆様にお知らせする等があるかと思っております。お問い合わせいただく際の窓口は、総務部となります。
- <ファシリテーター> 化学物質に関する情報については、工場からの情報発信の他にも、PRTR 制度というものがあり、私たちも自らで情報を入手することができるということですが。
- <化学物質アドバイザー> PRTR データは、昨年までは開示請求しないと入手できませんでしたが、今年からは、工場が届け出た化学物質の排出量等のデータが、個別の事業所ごとに公開されています。データは誰でも Web サイトから簡単にダウンロードできます。また、本日資料としてお配りした「PRTR データを読み解くための市民ガイドブック」という冊子には、PRTR データをどのように活用したらよいか等が分かりやすく紹介されています。また、本日の資料にはありませんが、環境省では「化学物質ファクトシート」を Web サイトで公開しており、ここでは化学物質の特性等が分かりやすく記載されていて、検索等もできます。
- <ファシリテーター> 最近はパソコンを使ってさまざまなデータを入手することができるということですが、パソコンをお使いでない方でも、例えば県に問い合わせしてもデータ等を頂くことができますか。
- <県> はい、お問い合わせいただければ各種の情報提供や御相談に乗ります。

(2) 今回のように、一般の地域住民の工場見学を受け入れてもらえるかどうか。

- <工場> 今後もこのような取組を続けたいと考えており、前向きに検討させていただきます。

(3) 社員 227 名の内訳、特に地元の数について知りたい。

- <工場> 従業員の内訳は概ね、町内から 80 名、亘理町から 50 名、福島県から 30 名、その他が 65 名となっています。なお、浅生原地区からは概ね 10 名です。

(4) 環境保全マニュアルについて詳しく教えてほしい。また、ISO の監査は毎年受けているのか伺いたい。

- <工場> 環境保全マニュアルには、個々の事項について手順書があり、仮に薬品が漏れた場合などにどのように対応するかも定めています。また、ISO の監査は、品質面と環境面の両方から受けています。

(5) 仙台工場における緊急時の連絡体制について伺いたい。

- <工場> 緊急の際には地域住民の方へお知らせすることが必須と考えますが、本日は工場長が不在のため、具体的な方法等につきましては、後日工場長と相談してどのような方法や体制がよいのか検討させていただきたいと思っております。

(6) [傍聴者からの意見] 工場から河川に対しての排水量について、また、排水に含まれる化学物質の検査結果について、工場開設当時のデータがあれば開示してほしい。さらに、排ガスについては基準値と工場からの排出量を比較すると十分安全との話ですが、詳しく教えてほしい。

- <工場> まず、排水については、平成 17 年 4 月からすべて下水道に切り替えましたので、河川へ流れることはありません。排水の測定結果について、創立当時のデータは現時点では明確にお答えすることはできませんが、ここ数年のデータはすぐにお見せすることができます。なお、下水道に排出する場合でも基準値があり、その基準をクリアするために毎月 1 回フェノール類含有量、銅含有量、亜鉛含有量、溶解性鉄含有量、溶解マン

ガン含有量，クロム含有量，ふっ素及びその化合物の7項目，3ヶ月に1回は水素イオン濃度，生物化学的要求量，浮遊物質，ノルマルヘキサン抽出物含有量，よう素消費量，フェノール類含有量，銅含有量，亜鉛含有量，溶解性鉄含有量，溶解マンガン含有量，クロム含有量，ふっ素及びその化合物，アンモニア性窒素，硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素含有量の13項目について，外部業者に委託して計量証明書を取って測定しています。工場ではふっ酸を使っていますので，特に「ふっ化水素及びその化合物」という項目に注意しています。この項目の基準値は8mg/Lで，最新のデータでは0.5mg/Lと，適正に管理されています。7月のデータでは1.5mg/Lと少し高くなっていますが，それでも基準値に比べると十分低い値です。次に排ガスですが，工場見学でも見ていただきましたスクラバという処理装置を通して大気に排出しており，「窒素酸化物」と「ふっ素化合物」について測定しています。測定値は，「窒素酸化物」は自主規制値150ppmに対して70ppm未満，「ふっ素化合物」は自主規制値3mg/m³に対して0.83mg/m³となっています。

→<化学物質アドバイザー> 基準値について補足させていただきます。工場からの説明で排水の「ふっ化水素及びその化合物」の基準値が8mg/Lとのことですが，これは下水道に排水する際の基準値です。一方，環境基準というものがあり，これは健康に暮らしていくために維持されることが望ましい基準のことで，排水に求められる基準とは異なります。河川における「ふっ化水素及びその化合物」の環境基準値は0.8mg/Lです。工場排水の最新のデータでは0.5mg/Lと環境基準さえもクリアしていますが，7月の1.5mg/Lは環境基準は超えているものの，排水基準は十分に満足していると言えます。

<ファシリテーターから>

本日は初めてのコミュニケーションということで，時間を10分ほど過ぎてしまいましたが，意見交換をしていただきました。工場の方からは，今後ともこのような取組を続けていきたいとお話がありました。ぜひ今日のこの会から繋げていって，今後，地域と工場の良い関係を作っていただけたらと思います。

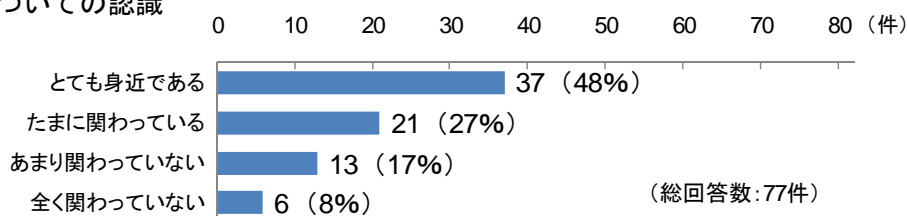
6 住民アンケート（事前）

リスクコミュニケーションの開催に先立ち，山元町の御協力をいただいて工場周辺地区（浅生原地区）の住民の皆様を対象として，工場の化学物質管理等に関するアンケート調査を実施しました。

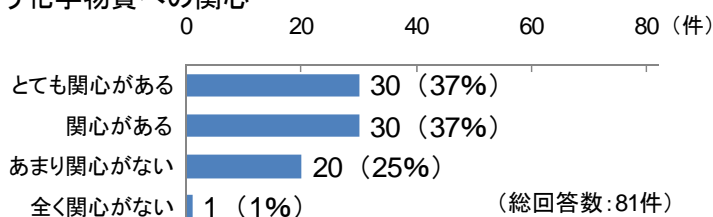
■回答状況

地 区	世帯数	回収数	回収率
浅生原	335	82	24.5%
合 計	335	82	24.5%

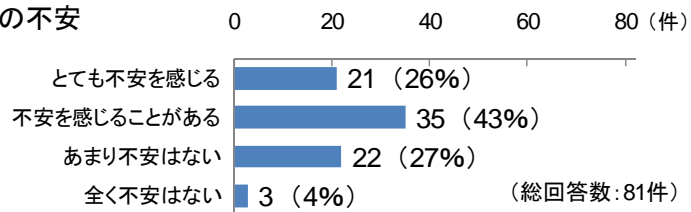
■化学物質についての認識



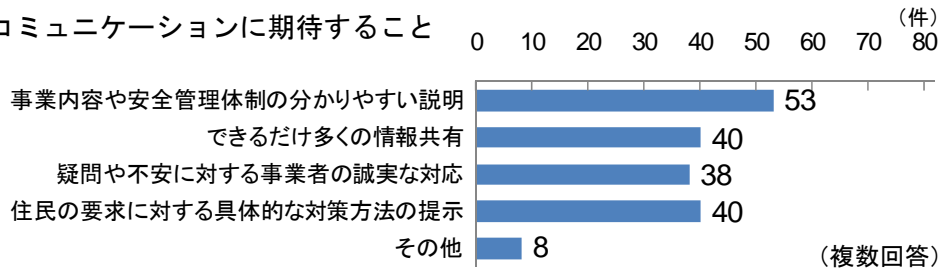
■工場で取り扱う化学物質への関心



■工場で取り扱う化学物質への不安



■リスクコミュニケーションに期待すること



なお、集計結果の詳細は[こちら \(住民アンケート集計結果\)](#) を御覧ください。

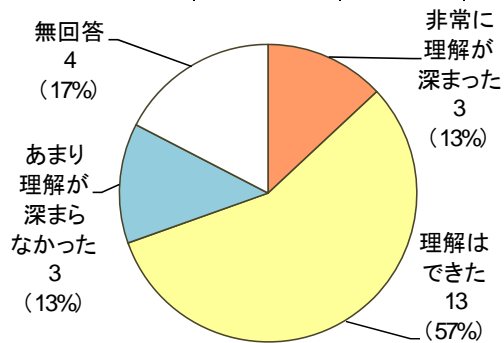
7 参加者・傍聴者アンケート (開催後)

リスクコミュニケーションの開催後、出席された住民代表者と傍聴者(地域住民, 県内事業者)を対象として、アンケート調査を実施し、感想や御意見を頂きました。

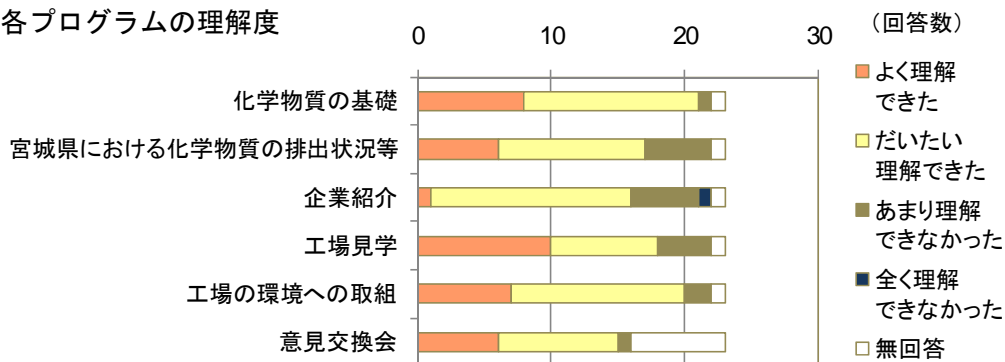
■回答状況

	配布数	回収数	回収率	区分	回答数	構成比
合計	24	23	95.8%	地域住民	12	52%
				県内事業者	9	39%
				無回答	2	9%

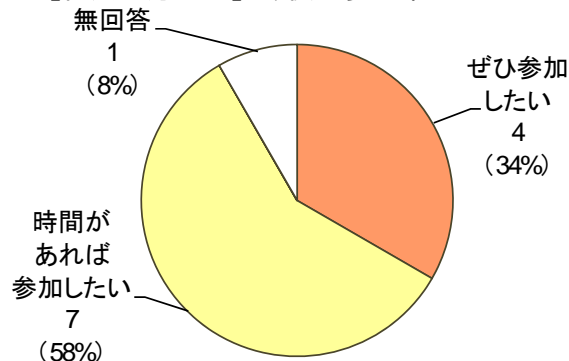
■工場の化学物質管理に対する理解度



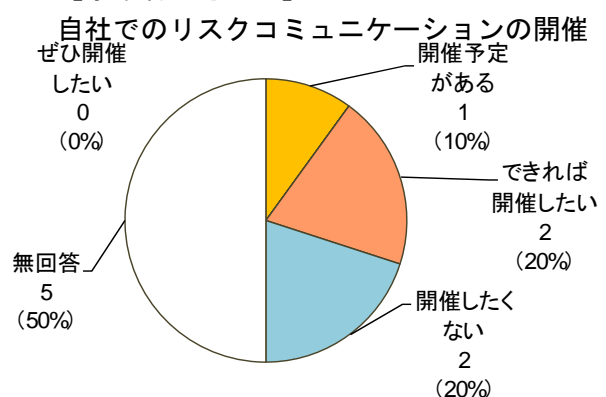
■各プログラムの理解度



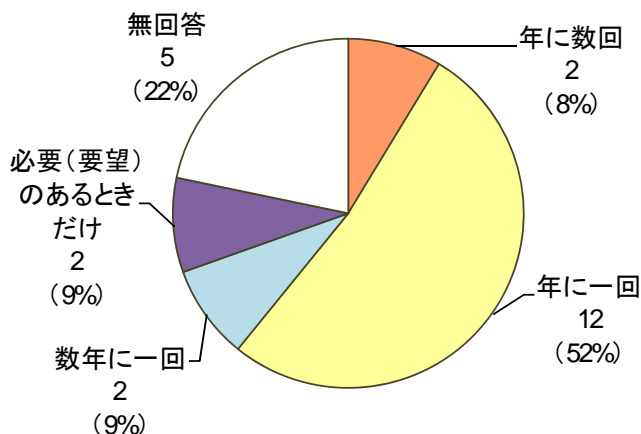
■【住民の方のみ】今後の参加希望



■【事業者の方のみ】



■リスクコミュニケーションの適当な開催頻度



なお、集計結果の詳細は[こちら\(参加者・傍聴者アンケート集計結果\)](#)を御覧ください。

8 まとめ

今回、県のリスクコミュニケーションモデル事業として募集したところ、エム・セテック株式会社仙台工場では、住民とのコミュニケーションの必要性を感じながらも経験が無く具体的な方法について検討していたとのことで、前向きな意向を受け開催しました。

準備の過程では、山元町に事前アンケート等の御協力をいただき、また、住民代表の区長及び副区長には今後の工場との連携について具体的な提言をいただく等、意欲的に関わっていただきました。

当日の意見交換では、ファシリテーターの適切な司会進行と要点整理により円滑な意見交換が行われ、住民からの意見要望に工場は終始誠実に対応していました。

今回、住民側は工場の事業内容や環境対策を知り、工場側は住民の疑問、誤解、不安や要望を知ることができ、今後の取組の方向性や課題抽出など、初回としては十分な成果を得ました。また、開催後、住民側から「工場見学と説明で疑問や不安が解消された」との意見があったことも大きな成果の一つと考えます。さらに、住民、町、工場がそれぞれ主体的かつ積極的に取り組んだことはリスクコミュニケーションの望ましい姿であると感じます。

今後は、今回の開催をきっかけに工場による自主的取組を積み重ね、住民と相互理解を深めることで良好な関係を構築し、地域と共存しつつ環境リスクの管理改善を実現していただくことを期待しています。

9 協力

モデル事業の開催に当たっては、化学物質アドバイザー事務局の御協力をいただき、化学物質アドバイザー及びファシリテーターの派遣を受けて開催されました。

なお、開催内容については、同事務局でも「対話事例」が作成され、ホームページ(<http://www.env.go.jp/chemi/communication/taiwa/index.html>)で公表されることとなっています。